

2016(平成28)年 在学生の学習時間調査

2016年9月末時点

2016(平成28)年8月1日時点で在籍している正科生(休学者 および 平成28年10月期新生を除く)を対象(2297名)に在学生の学習時間調査(『With』117号でご案内)を行い、708名から回答をいただきました(回収率:30.8%)。

この集計結果から、週3日以上学習している方が増えている傾向にあります。詳細は以下のとおりです。

問1 普段の学習頻度や学習時間についてお聞きします。

※ ここでの「学習」は、会場スクーリング受講時間は除くものとします。

①学習の頻度はだいたいどれくらいですか。一番あてはまると思うものを1つ選んでください。

回答項目	回答数	割合
週5～7日	100	14.1%
週3～4日	215	30.4%
週1～2日	237	33.5%
月に1～3日	107	15.1%
まだ学習に取り組んでいない	24	3.4%
未回答	25	3.5%
合計	708	100.0%

【2016年の結果】

「週1～2日」(33.5%)と「週3～4日」(30.4%)で全体の63.9%を占めた。「ほぼ毎日」に該当する「週5～7日」は14.1%、「月に1～3日」は15.1%であった。前年度と比較すると「週3～4日」が増加し、「週末や休日にまとめて(週1～2日)」「ほぼ毎日学習している(週3～4日)」が減少した。

【2016年の考察】

2014年に『レポート課題集』が、科目ごとに自主学習の指針を明示(「在宅学習の15のポイント」)する内容に改訂されたことで、推奨する学習量に対し、じっくり時間をかけて学習に取り組む学生が増えたことが推察される。

【経年変化の結果】

- ① 「週末や休日にまとめて」の割合では、2013年が52.9%、2014年が49.0%、2015年47.1%と漸減し、2016年は39.4%とさらに減少(前年度比-7.7ポイント)した。
- ② 「週3～4日」の割合では、2013年は27.2%、2014年は28.7%、2015年は27.6%とほぼ横ばいで推移し、2016年に30.4%に増加(前年度比+2.8ポイント)した。
- ③ 「ほぼ毎日学習している」の割合は、2013年は11.1%、2014年は12.6%、2015年は17.0%と漸増し、2016年は16.6%とほぼ同じ(前年度比-0.4ポイント)でした。

【経年変化の考察】

「週3～4日」「ほぼ毎日」と学習頻度が増加した理由として、その年度の回答学生の特長（学習スタイル等）の影響も考えられるが、2014年に『レポート課題集』が、科目ごとに自主学習の指針を明示（「在宅学習の15のポイント」）する内容に改訂されたことで、学習頻度の増加に少なからず影響したことが推察される。

【2013～2015年度調査】

	2015年調査		2014年調査		2013年調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ほぼ毎日(2015年度回答項目「週5～7日」)	74	17.0%	127	12.6%	103	11.1%
週3～4日	120	27.6%	289	28.7%	253	27.2%
週末や休みの日にまとめて (※2015年度回答数には「週に1～2日」 および「2週間に1～2日」「月に1～2日」 の回答数含む)	205	47.1%	493	49.0%	492	52.8%
その他 (※2015年度回答数には「まだ学習に取り 組んでいない」を含む)	36	8.3%	80	8.0%	69	7.4%
無回答	0	0.0%	17	1.7%	14	1.5%
計	435	100.0%	1006	100.0%	931	100.0%

②学習する日の1日の学習時間は平均してどれくらいですか。一番あてはまると思うものを1つ選んでください。

回答項目	回答数	割合
1 時間未満	67	9.5%
1 時間以上 3 時間未満	401	56.6%
3 時間以上 5 時間未満	138	19.5%
5 時間以上	55	7.8%
まだ学習に取り組んでいない	21	3.0%
未回答	26	3.7%
合 計	708	100.0%

【2016 年の結果】

「1 時間以上 5 時間未満」(76.1%)、「1 時間未満」(9.5%)、「5 時間以上」(7.7%)、「まだ取り組んでいない」(3.0%) の順であった。

【2016 年の考察】

1 日の学習時間が「1 時間以上 5 時間未満」で 8 割を占めた。学習頻度において「週末や休みの日にまとめて」が減少し、「ほぼ毎日」「週 3～4 日」が増えたことで、学習時間が分散されたことが考えられる。学生の学習スタイルの傾向としては、短期集中型から毎日少しずつ分散して学習するタイプが増えていることが推察される。

【経年変化の考察】

今年より質問文も回答の選択肢も変更し、この質問では、学習時間が増加しているのかどうかを把握することはできないため、経年変化については詳細な分析は避けたい。なお、「まだ学習に取り組んでいない」という回答割合が増加したが、その理由は本年より 10 月入学の新入生も回答いただいたためと思われる。

③ 1 単位分のレポート（論述式のもの）が完成するまでに要する平均時間はどれくらいですか。一番あてはまると思うものを1つ選んでください。

回答項目	回答数	割合
30 時間以上	73	10.3%
20 時間以上 30 時間未満	130	18.4%
10 時間以上 20 時間未満	222	31.4%
5 時間以上 10 時間未満	170	24.0%
5 時間未満	53	7.5%
まだ学習に取り組んでいない	36	5.1%
未回答	24	3.4%
合 計	708	100.0%

【2016 年の結果】

1 単位分レポートの完成までの所要時間は「10 時間以上 20 時間未満」（31.4%）、「5 時間以上 10 時間未満」（24.0%）とで 55.4%を占めた。「20 時間以上 30 時間未満」（18.4%）を加えると全体の 7 割を占めた。

【2016 年の考察】

問 1、問 2 の回答結果を合わせると、「週 1～2 日、1 日 1～3 時間を学習時間に充て、1 単位分のレポート課題を 10 時間以上 20 時間未満、すなわち 3 週間をかけて完成させている」学習状況が想像される。

前年度比では「30 時間以上」と「5 時間未満」「5～10 時間未満」が増加し、「10～20 時間未満」「20～30 時間未満」が減少した。レポートにじっくり時間をかけて取り組む学生と比較的短時間で完成させる学生とに二極化していく傾向が推察される。

【経年変化の結果】

- ① 「30 時間以上」の割合は、2013 年から 2014 年にかけて減少し、2014 年から 2016 年にかけて増加した。
- ② 「20～30 時間未満」の割合は、2013 年から 2014 年にかけて微増、2014 年から 2015 年に急増（前年度比+15.3 ポイント）し、2016 年には急激に減少（前年度比-9.7 ポイント）した。
- ③ 「10～20 時間未満」の割合は、2013 年から 2014 年にかけて減少し、2014 年から 2015 年に急増（前年度比+6.27 ポイント）し、2016 年には減少した。
- ④ 「5～10 時間未満」の割合は、2013 年から 2014 年にかけて減少し、2014 年から 2015 年に急減（前年度比-15.6 ポイント）し、2016 年には増加に転じた。
- ⑤ 「5 時間未満」の割合は、2013 年から 2014 年にかけて減少し、2014 年から 2015 年に急減（前年度比-7.34 ポイント）し、2016 年には増加に転じた。

【経年変化の考察】

レポート作成に要する時間が長くなった理由については、回答者に含まれる初学者（主に 1 年次入学者）の割合等、学生のレポート作成のスキルによる影響、および 2014 年に『レポート課題集』が、科目

ごとに自主学習の指針を明示（「在宅学習の15のポイント」）する内容に改訂されたことが学年進行にともない浸透してきたことなどが推測される。

【2013～2015 年度調査】

	2015 年調査		2014 年調査		2013 年調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
30 時間以上	36	8.3%	29	2.9%	31	3.3%
20～30 時間未満	122	28.0%	128	12.7%	106	11.4%
10～20 時間未満	141	32.4%	263	26.1%	248	26.6%
5～10 時間未満	88	20.2%	360	35.8%	340	36.5%
5 時間未満	23	5.3%	127	12.6%	138	14.8%
無回答 (※2015 年度回答数には「まだ学習に 取り組んでいない」を含む)	25	5.7%	99	9.8%	68	7.3%
計	435	100.0%	1006	100.0%	931	100.0%